

みなとっふ

地域の魅力を地元から発信

Takanawa Community News Magazine

高輪地区情報紙

三田4・5丁目・高輪・白金・白金台

2023年11月
Vol. 50

発行:高輪地区総合支所 協働推進課
編集:みなとっふ編集室

<https://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>



高輪地区情報紙 50号記念

まるごと

高輪地区の魅力

2006年11月に創刊された「高輪地区情報紙」は今回で50号になります。江戸時代からの長い歴史がある「高輪地区のあしあと」、みどりが多く、地域活動が活発な現在の「高輪地区のいま」、日本の中でも大きく変化しようとする「高輪地区のこれから」を区民の方、団体の方からお話を伺い、この地域の魅力をまるごとお伝えします。



おかげさまで
みなとっふは
創刊から
50号目となります

CONTENTS

P2/3 高輪地区のあしあと～貴重な体験を語る～
田口欽一さん
大竹 裕さん/小林郁子さん
金牧靖子さん
河村弘一さん
飯塚洗子さん
小林義彦さん/美智子さん
西郷庸子さん

P4/5 高輪地区のいま～魅力を探る!～
「高輪地区生活安全・環境美化協議会(愛称:あんしんきれいたかなわ)」
「高輪みどりでつながるプロジェクト」
「Takanawa共育プロジェクト(TKP)」
「高輪子ども中高生プラザ(TAP)主催・夏休み企画」

P6/7 高輪地区のこれから～まちづくりの未来に向かって～
「TAKANAWA GATEWAY CITY」のまちづくり
住民主体でまちづくりを考える「高輪三丁目まちづくり協議会」の活動

P8 区からのお知らせ

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

高輪地区のあしあと ～貴重な体験を語る～

高輪地区には、代々住み続けている方々が多くいらっしゃいます。その方々に伺った貴重な経験談を紹介します。

江戸時代から代々250年、高輪に住んでいます

欽一さんの母方のご先祖(山田家)は、江戸幕府第11代将軍徳川家斉の時代(1787～1837年)に伊勢から江戸に出て、高輪一丁目天神坂



両替商をしていた江戸末期のご先祖・山田金三郎夫妻

に両替商(札差)を開きました。当時の貨幣は、計数貨幣の金貨、銀貨と秤量貨幣の銀貨で、銀貨の重さを測る天秤が家にありました。政府は明治4(1871)年に「新貨条例」を制定し、金貨を貨

幣の基本とし、単位も「両」から「円」に改めました。この時、山田家は両替商を廃業しました。祖父は海軍に入隊し、軍人として活躍しました。また、丸山神社の氏子総代を務めたこともあり、地域に知人も多かったようです。

私は、昭和16(1941)年に高輪台国民学校に入学しました。戦時中、家にあった沢山の銭貨の穴にひもを通し、首にぶらさげて海軍省に寄付に行ったことがあります。また、空襲がひどくなった時は、天神坂にいくつかあった防空壕に逃げ込みました。昭和20(1945)年3月から12月まで、軽井沢に疎開していました。疎開地で、母と妹は食糧事情が悪く亡くなりました。悲しい思い出です。疎開から帰った際、自宅は戦災から免れ、無事でした。

その後、新制高等学校から早稲田大学に進み、企業に就職しました。退職後は若竹会(高輪地



田口欽一さん(88歳)高輪在住

区老人クラブ)会長をはじめとした地域活動をしていました。代々250年住んでいる高輪にこれからも住み続けたいと願っています。

竹の子を献上して「大竹」姓に!

大竹家は、武蔵小山辺りの豪農で、石井文左衛門を名乗っていました。ある時、殿さまが鷹狩りに見えた際に大きな竹の子を献上したところ、大層喜ばれ「大竹筍左衛門」という名を頂



大竹裕さん(74歳)小林郁子さん(88歳)白金台在住

戴し、その上、白金台辺りに広い土地も賜りました。筍左衛門は分家し、1700年代末に当地へ移って以来、一族が近隣に住み、今では大竹家が14軒あります。

筍左衛門から数えて5代目・新太郎氏の5男2女のご長女・郁子さんと五男・裕さんに伺いました。

第二次世界大戦中、伝研(現在の東京大学医科学研究所)建設にロックフェラー財団が関わっていたため、自宅周辺は計画的に爆撃を免れ、そのまま残っていました。終戦後疎開先から帰りたくても、近隣の被災者が我が家に住み込み、すぐには帰れませんでした。

戦時中は生きているのが不思議なくらいの苦しい時代でしたが、戦後は生活用品の電化が進み、下水道

が整備され水洗トイレになった時は嬉しかったです。

最近では、むかし父と見た明治学院の大イチョウについて、かつて道路拡張のため学院が土地を提供する際、この木を残すことを条件に無償譲渡したという話を思い出し、今夏の伐採時に見納めに行ってきました。

時が進み、まちの様子は変わりましたが、この辺りは落ち着いた街並みが残っているように思います。今にして思うとまちづくりは人の力、まちの発展は人の善意によるものと痛感します。今日の平和を後世に繋げなければと切に願っております。



大竹家に代々伝わる享保鐘

400年の歴史がある金牧工務店、江戸の町火消の頭として活躍していました

金牧工務店第11代、金牧秀二郎氏(22年前にご逝去)の奥様、靖子さんにお話を伺いました。金牧家は約400年前に高輪に移り住み、当時は、日本橋の三越のそばにある金牧工務店に人力車で通っていました。

江戸時代の建設業として、大工、とび職、左官、瓦屋、畳屋などの職人を束ねており、高輪にある松平家など各大名の上屋敷・下屋敷や、北白川宮家、高松宮家、華頂宮家、池田侯爵家などから、仕事の依頼を受けていました。また、身体能力の高いとび職で構成されていた江戸の町火消(消防団)の中で、金牧家は江戸全体の町火消の頭として活躍しました。

敷地内には、井戸が二つあり、一つは四畳半



かねまき金牧靖子さん(82歳)高輪在住

ほどの大きさでした。東海道の裏道であった二本榎通りは、大名行列が通る時、この金牧家の大きな井戸を知っていた下級武士などが立ち寄って、馬の体を洗ったり水を補給したりと休憩する場所になっていました。今でもこの二つの



江戸の町火消 各町のまといの図

井戸があります。

大正12(1923)年の関東大震災では、二本榎通りは火災を免れ、焼け出された人たちに、お手伝いさん達が毎日おにぎりをにぎって配ったそうです。

人と人をつなぐのが私の役目

河村弘一さん(82歳)白金在住



王貞治さんのサインボールを持つ河村さん

明治32(1899)年の祖父の代から、今の場所で理容店(散髪屋)をしています。父は昭和10(1935)年から兵役で不在のことが多かったので、祖父によく育ててもらいました。4歳のとき、茨城県水戸市の郊外に疎開し、東京大空襲の3月9日の夜は、そこから見た東京の空が真っ

戦後一時期、廃校だった小学校に住んでいました 飯塚冴子さんの、私の「高輪」

「昭和16年6月14日生、飯塚冴子」と手書きされた封筒、中にはへその緒と生後6か月の記録が書かれた「厚生省一乳幼児健康指導票」が入っていました。亡き母が大切に残してくれた遺品です。この健康指導票、裏面には「一、日本の國もあなたの家も、此の赤ちゃんによって栄えるのです。強く正しく育て上げましょう」など、5項目の育児心得が書かれています。



昭和8年、高輪小学校と子どもたち

この年12月に開戦、私はこんな時代に生まれました。

高輪教会が縁結び!

小林義彦さん(79歳)美智子さん(72歳)高輪在住



西郷庸子さん(79歳)高輪在住



当時の光輪閣の外観(現存しない)

赤でした。

戦後は、焼け野原に割れた鏡と椅子を並べて、祖父が理容店を始めました。父は戦後すぐの昭和20(1945)年9月頃には帰ってきて店で働きました。住む所はバラックをすぐに建て、髪を切る人はどんな状況でもいるので、日銭は稼げました。子どもの頃の思い出は焼け野原。広尾病院、慶應義塾幼稚舎、北里大学北里研究所病院以外には大きな建物がなく、渋谷まで見えました。

当時の最大の娯楽は、白金演芸館や高輪映画館などで芝居や映画を観ることでした。また、紙芝居を観たり、ペーゴマ、ビー玉、めんこをしたり、高松中学校の池でザリガニをとったりもしました。

通っていた三光小学校では、屋上から富士山が見えました。戦時中、校舎には迷彩模様が描かれていました。それから朝日中学校に進み、軟式野球に熱中し、港区大会で準優勝までしました。野球で体が鍛えられたと思います。

出生地は、芝区二本榎1-16、父は高輪台国民学校教員でした。

昭和19(1944)年、父の学童疎開に家族で那須塩原温泉へ。翌年、終戦後の大晦日に二本榎(高野山別院前の仮住まい)へ帰郷しました。高野山別院の広い境内で遊び、近くの高輪教会の日曜学校が楽しい思い出です。7歳で高輪台小学校に入学。住居は急遽作られた教員用アパートに移転しました。廃校になっていた小学校の木造二階建て校舎の教室を仕切って居室を作り、家族数で割り当てられました。

我が家は裏門に近い1階で、元学童の水飲み場でお米を研ぎ、廊下で煮炊きした記憶があります。夜寝るのは、梯子でのぼる天井の低いロ

祖父の代から芝二本榎に住んでいるという義彦さん。元々は備前松山(岡山県高梁市)の御典医(大名に仕える医師)だそうです。私は6人兄弟の一番下で、この一帯は長屋が並び、天井をネズミが走り回っていました。

今のグランドプリンスホテル新高輪は200m位続く鬱蒼とした森でちょうど良い遊び場でした。管理人に追いかけられ、怒られたこともあり。二本榎通りの映画館で「ターザン」を見たのを覚えています。近所に貸し自転車屋があり、1時間10円位で借りて乗ったものです。

生まれてからずっと二本榎に住んでいるという美智子さん。結婚は高輪教会が結んだ縁でしょうか。小林家とは近いですが、区画分けがされていて別の

東海大学のテニスコートはマーケットでした

横浜で生まれ、新潟へ疎開したあと、戦後に高輪三丁目に引っ越してきました。高輪台小学校に通い、今でも同級生と交流があります。昭和44(1969)年に結婚した後は、ずっと高輪一丁目に住んでいます。結婚式は光輪閣(元高松宮邸・現高輪皇族邸)で挙げました。子どもの頃、明治学院の敷地は教会など建っていたものの広い野原でしたので、そこで鬼ご

義務教育が終わってすぐ16歳から家業を継いで働き始めました。82歳の今でも現役で、妻と娘2人と一緒に働いています。白金一丁目東地区第一種市街地再開発事業のときは、再開発に協力して残る方を選びました。再開発で客層が変わりましたが、一方では90年続けて通って下さる方もいます。ずっと地元にいるので、小・中学校の知り合いも訪ねてきてくれます。

今は高輪地区生活安全・環境美化協議会のパトロール部会の部会長を務め、「人と人をつなぐのが私の役目」と思い、新しく引っ越してきた人にも神輿をかついでみないかなどと声かけをしています。



再開発前の白金理容がわむら(絵:故 高寺正雄画白)



飯塚冴子さん(82歳)三田在住

フト状のところ、トイレは共同便所で夜に行くのが怖かったです。劣悪な住環境でしたが、遊び場だった元校庭では、自由活発になわとびなどをして楽しく遊びました。

やがて、社会人となり独立。今の三田には、2年間の海外勤務後、30年近く住んでいます。

班でした。家の前はレーマン邸、石造りの塀に囲まれ、塀によじ登っても中は見えませんでした。元は大久保利通邸で純和風の住宅をフランス人が洋風に使っていたようです。その隣の第四公邸(共用会議所として中央省庁が共同で使用していた)には、緒方竹虎氏(1888～1956年、政治家)が住み、中曽根康弘氏も住んでいて、わが家へ挨拶に見えました。

小さい頃は家の前の道で缶蹴り、蝸石で丸を書いてケンケンパで遊びました。二本榎通りにおかめ堂というおもちゃ屋があり、毎年羽子板を買ってもらうのが楽しみでした。



高輪教会【提供:高輪今昔物語デジタルアーカイブ】

高輪地区のいま ～魅力を探る!～

高輪地区の魅力は、「みどりが多い」、「安心・安全・きれい」、「多世代の交流がある」、「子育てがしやすい」などが挙げられます。これらの魅力をつくるために活躍している団体、グループの方からその活動を伺いました。

「高輪地区生活安全・環境美化協議会(愛称:あんしんきれいたかなわ)」 高輪地区の安全・安心を見守り、環境美化を推進する

高輪地区生活安全・環境美化協議会は、「地域の安全確保と環境美化の推進」を目的とし、高輪地区に住み、働き、活動する町会、団体、企業、官公庁(現在93団体が参加)で構成され、『パトロール、道路・公園、環境美化、自転車・バイク対策』の4専門部会が活動の中心です。

防犯パトロールや落書き消しキャンペーン、通学路点検、地域の清掃や打ち水等のイベント、放置自転車への注意札貼付活動など、どれも私たちの生活に身近で密着

した地道な活動ばかりです。1回あたり約15～25人の参加があり、企業の社員教育の一環での参加や町会・商店会ぐるみの参加、地域の子どもの参加もあるそうです。



地域の方がさらに参加しやすくなるよう、個々の町会・自治会や地域企業の「点」としての活動を相互に結びつけるような工夫や、「参加したいがどうしたらいいか」と思っている住民に対し掲示板で周知していきたいとお話されています。また、学生や企業人に対する地域のお祭りでの神輿担ぎへの参加の呼びかけもしたいとのことでした。

最近、高輪地区で多く見られる高層マンションでは管理組合が地域の町会・自治会に参加しない所も多く、活動の広がり観で課題もあるとのこと。「まずはやれることから参加いただき、できるだけ継続いただくことで、人と人のつながりを大切にしていきたい」とのことでした。皆様もできることからぜひご参加下さい。



落書き消し(パトロール専門部会)



古澤秀治会長



白金高輪駅周辺清掃活動(環境美化専門部会)

「高輪みどりでつながるプロジェクト」 高輪地区の緑を守り、育み、楽しむ

区民参画組織「タウンミーティングTAKANAWA」において現在17名で緑化のボランティア活動をしている「高輪みどりでつながるプロジェクト」グループの瀬能正実さん、今泉昌代さんと高輪地区総合支所のまちづくり課の担当者にお話を伺いました。

平成27(2015)年4月にグループが発足してから主に次のような活動を行っています。
・グループが種から育てた苗を高輪コミュニティらざをはじめ地域内の公園や街路樹ますに植栽し、手入れする。
・「アジサイロード」の育成と維持。
・「TAKANAWA HOP WAY」に参加しホップの育成を行う。
・「緑」の活動を通して地域に緑化を普及、啓蒙する。

一番苦労したのは、育苗がとても難しいアジサイを挿し木から大切に育み、今のように見事



高輪支所の壁面で大きく育ったホップ



アジサイロードでの挿し木作業風景

な花を咲かせるまで手入れしたことだとお話されました。

今年6月に初めて高松中学校の敷地内にある「アジサイロード」が一般の方々に開放され、地域の方がゆっくと楽しむことができましたが、今後はこれをもっと拡大したいとのことでした。

グループの方、地域の人々、区、学校、企業などが協働して地道な活動を続けてこられた結果、今や高輪地区の緑被率(※)は28%(区内平均22.6%)になっています。(港区みどりの実態調査(第10次)報告書より)

この活動のおかげで、私たちが地域内の花々や緑を楽しんでいることをありがたく思います。プロジェクトが行うイベントは一般参加可能なものもあります。活動に興味を持った方は気軽に参加して「緑」を楽しんでみてください。

※緑被率[りょくひりつ]:都市計画などに用いられる平面的な緑の量を把握するための指標で、対象となる地域の面積に対して緑被地が占める割合。



泉岳寺

亀塚公園

「Takanawa共育プロジェクト(TKP)」

東海大学情報通信学部の佐藤弘幸教授と学生4名(羽生田直希さん、関雄大さん、鳴神佳乃子さん、平山咲良さん)からTakanawa共育プロジェクト(以下、「TKP」という)についてお話を伺いました。

TKPは高輪地区の活性化に貢献することを目的とした学生のボランティア団体です。構成メンバーは情報通信学部だけでなく、様々な学部・学科の学生が参加しています。

現在のメンバーは約40名です。入ったきっかけは先輩たちの活動を見たり、先生から声をかけられたりしたことです。それぞれの活動について、メンバーが希望して参加する仕組みになっています。TKPが最初に始まったきっかけは、地域の皆さんにも楽しんでいただくとうと大学周辺にイルミネーションを設置したことです。

●活動内容について
・TKP独自の企画「TKPといっしょ」として、高輪子ども中高生プラザ(TAP)と一緒に子どもたちと遊ぶ「たかなわ子どもコミュニティカレッジ」での活動を実施。モバイルモーションキャプチャーを使用したジェスチャーゲームを

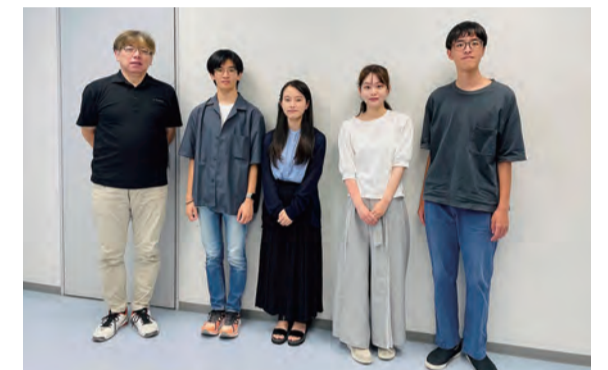
行った。
・地域のお祭りの手伝い…高輪神社、高野山、泉岳寺のお祭りや高松桜まつりなど
・高輪ビールづくりの手伝い…キャンパス内で材料となるホップを栽培
・TAPのアートカレッジや写真展の広報活動
・メリロード高輪などのホームページ作成
●活動しての感想は
・社会で活動されている方や子どもたちなど異世代との交流を体験し、これから社会に出て働くことになるので、このような体験が役に立つと思います。
・慣れないことが多くイベントが成功できるか不安でしたが、本番では子どもたちに喜んでもらうことができ、私たちも一緒に楽しむことができよかったです。
・イベントの手伝いに参加した際、皆さんから優しく声をかけていただきました。また、次のイベントにもお誘いいただき、本当に嬉しかったです。
●今後のTKPの活動について
・新型コロナウイルス感染症の影響で途絶えて



東海大学イルミネーション

いた、テニススクールを再開したいと思います。
・子どもたちにVR(ヴァーチャルリアリティ)体験や簡単なプログラミングを学ぶ機会をつくりたいと思います。

これからもさまざまなイベントを通して、地域の方々との交流を深めながら、皆様のご要望に応じていければと考えています。



佐藤教授とTKPメンバー



モバイルモーションキャプチャー TAPと一緒に

「高輪子ども中高生プラザ(TAP)主催・夏休み企画」 ～企業のCSR活動～子どもの学び

8月、TAPでは夏休みを利用して企業と連携したワークショップを開催しました。そこで行われた「CurioStep with Sony わくわく科学工作・紙コップスピーカーワークショップ」(ソニーグループ株式会社)と「科学実験教室『豆乳からプラスチックをつくろう!』」(テサテブ株式会社)をご紹介します。

「紙コップスピーカー」は毎回募集枠以上の応募があるそうです。無料の工作キットが配られ、保護者と一緒に楽しく作りながら音の出る仕組みを学びます。コイルと強力な磁石とで磁場を発生させて紙コップを振動させ、プレーヤーに繋いで紙コップスピーカーから音が聞こえると完成です。男の子が、嬉しそうに取材班の私たちにも紙コップスピーカーから伝わる音を聴かせてくれました。



紙コップスピーカーキット

「豆乳からプラスチックをつくろう」では、自然に分解されやすいプラスチックを作る実験をしました。豆乳にレモン水とカラー剤を入れて固めたプラスチックを、オリジナルキーホルダーにして持ち帰ることができます。赤、青、黄色の、色々な形のプラスチックが出来上がりました。豆乳が固まるまでの時間、環境とプラスチックにまつわるクイズが話題され、とうもろこしからも環境にやさしいプラスチックは作ることが出来ることなどを学び、子どもたちは興



紙コップスピーカー製作の様子

味津々の様子でした。
考えて作る、こうした体験は子どもたちがより良い未来をつくっていくためのきっかけとなってくれることでしょう。



豆乳プラスチック型抜き

高輪地区のこれから ~まちづくりの未来に向かって~

高輪地区の10年後、20年後をみると、品川駅の大改造、リニア中央新幹線ターミナルの設置、環状第4号線の整備、国道15号線の拡幅、東京メトロ南北線の品川駅の延伸など交通体系の整備に加えて、TAKANAWA GATEWAY CITY、高輪三丁目品川駅前地区第一種市街地再開発事業など大規模開発が目白押しです。大きく変わる高輪地区、今回はJR東日本が進めている「TAKANAWA GATEWAY CITY」と区民主体のまちづくりを考える「高輪三丁目まちづくり協議会」の活動を取り上げました。

「TAKANAWA GATEWAY CITY」のまちづくり

今年5月に、「高輪ゲートウェイシティ」はこれまでの仮称から、「TAKANAWA GATEWAY CITY」に正式名称が決定しました。「100年先の心豊かな暮らしのための実験場」をビジョンに掲げ、未来のまちづくりに取り組んでいる東日本旅客鉄道株式会社(以下、JR東日本)TokyoYard Buildingを訪問し、同社の高橋篤史さん、街の文化創造棟の企画・運営を担当する一般財団法人JR東日本文化創造財団の内田まほろさんにお話を伺いました。

「TAKANAWA GATEWAY CITY」

複合棟Ⅰおよび高輪ゲートウェイ駅周辺エリアを令和16(2024)年度末(2025年3月)に開業し、その他の棟(複合棟Ⅱ・文化創造棟・住宅棟)および各棟周辺エリアを令和17(2025)年度中に開業する予定です。



TAKANAWA GATEWAY CITY イメージ【画像提供・JR東日本】

街の名称「TAKANAWA GATEWAY CITY」について

アルファベット表記にしたのは、「高輪」の地の歴史を継承しつつ、人、自然、テクノロジーを繋ぎ、国際交流拠点「Global Gateway」として、100年先の心豊かな暮らしのために、従来の発想にとらわれない魅力溢れる国際交流拠点「高輪」を世界の「TAKANAWA」にする

という想いが込められており、駅名称を冠することで、エキマチー一体開発であることを表現しています。また、新しいロゴについても、江戸の「玄関口」であった「高輪」のはじまりの文字「高」を「GATE」の形状に見立てることで表現しています。



1街区ビオトープ イメージ【画像提供・JR東日本】

「TAKANAWA GATEWAY CITY」という「街」づくりについて

現在、令和6年度末(2025年3月)のまちびらきに向けて次のような準備を進めています。

①エキマチー体の53 Playable Park

都内最大級約4haのオープンスペースに、「53 Playable Park(※)」というコンセプトのもと、南北約1km以上にわたって、駅や広場からなる賑わいを生み出す遊び場(Park)が誕生します。ここでは環境保全をテーマとして、住民・来街者参加型のプログラムの実施も検討しています。

- ・高輪ゲートウェイ駅と連動した公園のような広がりがあるスペース
- ・住宅棟側に、在来種を中心としたビオトープ
- ・複合棟Ⅰ North 28~29階に、地上100m以上の高層建築物では世界で類をみない、本物の植物で展開する約2,000坪のボタニカル・ルーフトップ
- ・文化創造棟前に高輪築堤を保存展示した公園(保存展示は開業の2年後を想定)

※[53]は、東海道五十三次に着想を得てネーミング。



【画像提供・JR東日本】

②100年先の心豊かな暮らしのための実験場

多様なパートナーとともに、街全体を仮想空間と現実空間が融合する実験場として構築し、街で収集したデータをデジタル上でシミュレーションしてリアルな街にフィードバックする「デジタルツイン」や、インキュベーション施設(複合棟Ⅰ North 6~7階)や環境生命科学ラボ(仮称)(複合棟Ⅰ North 6階)を通して得たデータや知見を活かして、健やかで心豊かな暮らしを実現する新しいサービスの創出や社会問題の解決に取り組み、進化し続けるスマートシティの実現を目指しています。

③ゼロカーボンでサステナブルな環境先導まちづくり

社会的な関心の高い環境・エネルギー課題の先導的な取り組みとして、使用する電力を実質再生可能エネルギー由来とし、CO2排出量「実質ゼロ」を実現するとともに、エネルギー多様化の観点から、モビリティや燃料電池等の水素利活用の取り組みを推進してエコフレンドリーでサステナブルなまちづくりを推進します。

- ・複合棟Ⅱ地下の地域冷暖房施設に、国内最大級の蓄熱槽を導入して効率の高いエネルギー供給を実現。また、建物内のエリアをゾーン別に細分化して空調設備を運転制御することが可能なシステムにより、街全体で高度かつ最適なエネルギー・マネジメントを実現。
- ・街の商業施設の飲食店等から出る食品残さを資源、燃料として再利用する東日本初のビルトイン型バイオガス設備やCCU(二酸化炭素回収・有効利用)技術の活用によるサーキュラーエコノミーの実現。

取材を終えて

「まちびらき」に向けてJR東日本が総力を上げて進めている「TAKANAWA GATEWAY CITY」の取り組みのひとつひとつが、最先端テクノロジーを用いて、自然の持つポテンシャルを活かし切るという思想で組み立てられているように感じました。「どんな街ができるのか?」2025年3月の「まちびらき」がますます待ち遠しくなります。

JR東日本では、地域との共生を大切にしており、地域の人が様々な場所でホップを育てる「TAKANAWA HOP WAY」というコミュニ



高輪ゲートウェイ駅改札内イメージ【画像提供・JR東日本】

ティ活動に取り組んでいます。また、マルシェやビールフェス、お祭り、コンサート、先端テクノロジー体験など各種イベントを高輪ゲートウェイ駅で開催していますので、地域の方々に、イベントや活動に参加して、これから出来る街を知って、楽しんで欲しいとのことです。



内田まほろさん(左)と高橋篤史さん(右)【撮影:平尾】

住民主体でまちづくりを考える「高輪三丁目まちづくり協議会」の活動

「高輪三丁目まちづくり協議会」初代会長の片桐義雄さん、現会長の加藤泰さん、役員の内田敏雄さんから高輪いきいきプラザ会議室でお話を伺いました。

経緯と活動内容

町会周辺に、環状第4号線、品川駅西口地区地区計画、高輪ゲートウェイシティ開発等大規模開発が多くあり、この地域はどうなるだろうか、自分たちで考えようと思い、平成27(2015)年3月に高輪共和会まちづくり勉強会を発足しました。勉強会は5回開催しました。

平成28(2016)年、「高輪三丁目まちづくり協議会」に組織を拡大し、第一回総会には60名が参加しました。その後、総会、勉強会を何度も開催しました。

平成29(2017)年、「環状4号道路事業に関する意見書」を東京都に提出。「港区三田高輪地区まちづくりガイドラインに対する意見書」を提出。

平成30(2018)年、「品川駅西口地区計画案についての意見書」を提出。「環状4号線都市計画変更案についての意見書」を提出。

平成31(2019)年4月、高輪三丁目まちづくり協議会と並行し、環四沿道(高輪三丁目)地区まちづくり協議会を発足。環状第4号線の整備に合わせて、面的にまちづくりを考える地区計画の勉強会を行いました。

令和2(2020)~令和3(2021)年、コロナ禍で活動はオンライン中心で行いました。

令和4(2022)年、品川駅西口地区開発事業者と

意見交換3回。「まちづくり通信」を発刊しました。

令和5(2023)年、芝浦工業大学と連携。第1回全体集会を高輪区民センターで開催。122名(うち地域住民96名)が参加しました。

●まちづくりの考え方

「世代を超えて住み継げる住環境の実現」
・緑豊かなパティオのある暮らし 武蔵野台地に沿った崖線のみどりの保全
・都市型の便利さのある暮らし

●計画区域

南/環状第4号線、北/桂坂、東/国道15号、西/補助14号に囲まれた約12.5ha

●協議会の進め方

課題の解決については、行政、事業者と情報交換、話し合いをしながら進めました。

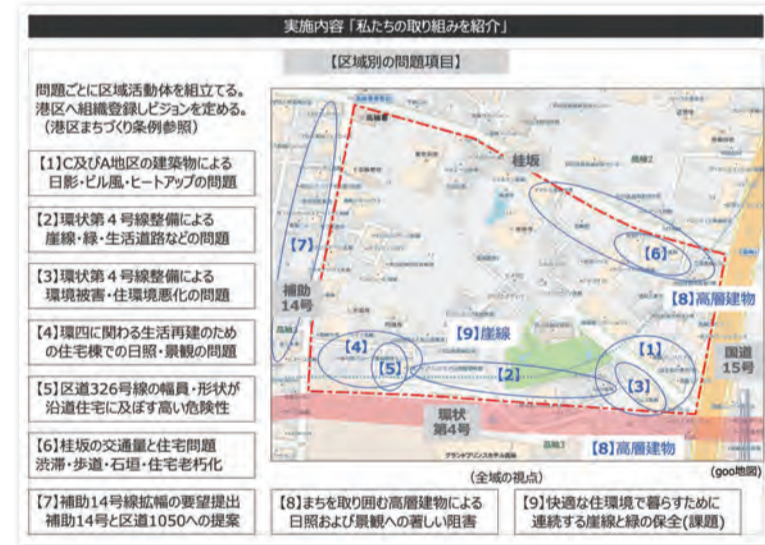
●環四沿道(高輪三丁目)地区まちづくり協議会経緯

協議会会員は沿道地権者で構成。役員会45回開催。まちづくりビジョン、まちづくりルールを作成し港区へ申請を終えました。現在地区計画案を作成中、2023年11月ごろ港区へ提案予定です。



現会長・加藤泰さん

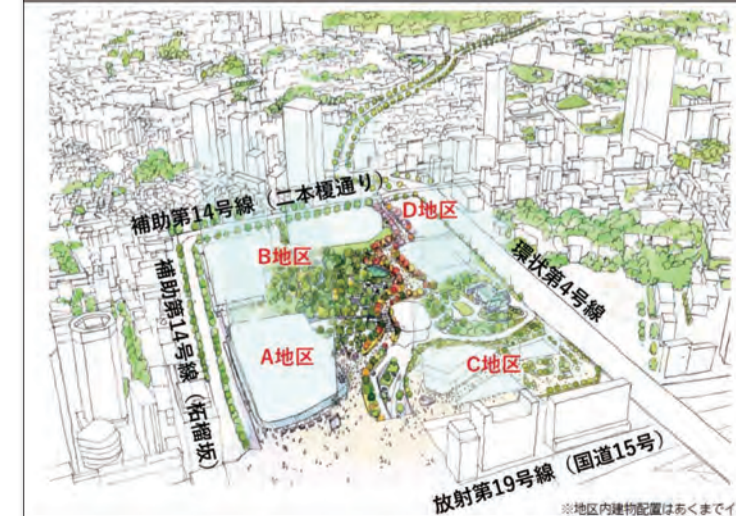
初代会長・片桐義雄さん



高輪三丁目まちづくり協議会課題図

品川駅西口のまちづくり【画像提供:都市計画課】

品川駅西口地区(全体イメージ)



品川駅西口開発(建物概要 A地区及びC地区)

街区	A地区イメージバス		C地区イメージバス	
	A地区	C-1地区	C地区	C-2地区
計画容積率	約1,000%	約990%	約50%	約50%
容積対床面積	約235,500㎡	約160,000㎡	約160㎡	約160㎡
延床面積	約313,100㎡	約194,000㎡	約170㎡	約170㎡
階数	地下4階、地上29階	地下2階、地上30階	地上1階	地上1階
建築物の高さ	約155m(T.P.+5.0mから)	約155m(T.P.+5.0mから)	約10m(T.P.+14.0mから)	約10m(T.P.+14.0mから)

区からのお知らせ



高輪地区総合支所の公式X(旧ツイッター)では、地域のできごとをはじめとした様々な情報を発信中。ぜひフォローをよろしくお願いいたします! @minato_takanawa



都税のお知らせ

都税がスマートフォン決済アプリで納付できます

都税の納付にスマートフォン決済アプリを是非ご利用ください。アプリ内で納付書のバーコードを読み取るだけで、いつでも、どこでも、簡単に納付できます。

詳細は、東京都主税局ホームページをご確認ください。



来所せずにお手続きができます

東京都主税局では、納税者の皆様が都税事務所等に来所することなく、郵送やインターネット等でお手続きできる仕組みを設けております。郵送や電子による申告、申請・届出、キャッシュレスによる納税方法等をぜひご利用ください。



不動産登記申請時には課税明細書がご利用いただけます

不動産登記の申請を行う際には、登録免許税の算定のため、固定資産の価格を記載する必要があります。その価格は、「固定資産税・都市計画税 納税通知書」と同時期(6月)にお送りする、課税明細書でご確認いただけますので、有料の評価証明は原則不要です。

詳細は、東京都主税局ホームページをご確認ください。

お問合せ先 港都税事務所 ☎03-5549-3800 (代表)



あなたのまちの町会・自治会でお手伝いしてみませんか?

町会・自治会は、住民の皆さんに一番身近な自治組織で、まちの防災、清掃、パトロール、お祭りなどを実施しています。少しずつの参加で構いません。まちの安心・安全やコミュニティ作りのお手伝いに興味がありましたら、お気軽にご相談ください。

お住まいの地域の町会・自治会は、右の二次元コードからご確認ください。

お問合せ先 高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 ☎03-5421-7621



コミュニティ・カフェ高輪

高輪地区CCクラブ、高輪地区総合支所協働推進課、高輪区民センターそして地域の方が協働で運営し、地域の方が自由に参加できるカフェです。

●毎月第2・4金曜日13:30~15:30頃(12月と2月の第4金曜日はなし)

場所:高輪区民センター2階展示ギャラリー前

●毎月第3金曜日13:30~15:30頃

場所:ゆかしの杜6階区民協働スペース

●毎月第3火曜日14:00~(ミニ講演会)もしくは13:30~15:30頃(カフェ)

場所:HUG高輪

HUG高輪では毎月いろいろなイベントを企画しています。詳細は港区掲示板、高輪地区デジタルサイネージ、いきいきプラザなどのチラシでご案内します。

地域の方が交流できる場所としてコーヒーを飲み、そしてお話ができる場所です。お気軽にお出かけください。



写真はゆかしの杜6階区民協働スペースでのカフェ(2023.07.21)

お問合せ先 高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当 ☎03-5421-7123

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前に確認ください。

区民課窓口サービス係

☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085



ご愛読ありがとうございます。
編集委員みんなで取材&執筆。
50号を無事発行できました。
これからもよろしくお願ひします!



イラスト:山崎

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。

みなとっぴ バックナンバー

編集だより

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

区民編集メンバー

安藤 洋一(チーフ)	大友 登喜雄
吉田 由紀子(サブチーフ)	佐々木 智秋
長原 眞智子(サブチーフ)	滝川 まりえ
阿部 泰	平尾 恭一
池井戸 晴美	山崎 優子
伊関 則子	

▶この地域情報紙の編集に1号から参加しています。地域のいろいろな人にお会いでき、いろいろなことを学びました。本当に、自分の人生を豊かにしてくれたと感謝しています。(安藤)

▶港区高輪地区、過去・未来・現在、どこを切り取っても魅力的な街だと再認識し、この街に長くお住まいの方々の珠玉のストーリーに感動をもらった今回の50号記念号でした。(吉田)

▶50号記念ということで、長い間情報紙を続けてこられた先輩方と支所の皆さまに感謝申し上げます。経験値は低いですが、みどりが多く住みやすい街のあれこれをお伝えできるよう頑張ります。(長原)

▶ひょっとすると高輪地区は10年後、街の光景が全国でも最も変化するのは、その一端を伝えられればと思います。(阿部)

▶取材させていただいた方が、手をつくして貴重な資料や写真を集めて下さり、感謝感謝です。(池井戸)

▶徳川さんより前から住んでいます! なんという方もいらっしゃるのを知り、こうしたお話の積み重ねが地区の歴史となっていくのが、感動でした。(伊関)

▶安心安全や緑豊かなまちづくりのお話を伺い、学生さんのパワーを感じ、子どもの学びの場にも直接接することができ、有意義な取材でした。(大友)

▶高輪三丁目まちづくり協議会取材に参加。昔から住む人、新しく住む人、双方に愛される地域であり続けますように。(佐々木)

▶50号発行となり、感慨深いです。今回、この地域に代々住んでおられる方が多いことに驚くと同時に、とても貴重なお話を聞きでき、感謝でした。(滝川)

▶高輪地区のいま、魅力を探る! のページに参加。子育て支援の取材では、楽しく学ぶ子どもたちの姿に未来を感じました。(山崎)

MINATO CITY



買い物するなら地元の商店街で